

# 柏木ビジョン

新宿区立  
柏木小学校

2024.11.18

## 6年生でもはまる音楽指導 多彩な導入

多感な6年生の時期になると、「めんどくさい」とか、「やってられない」とかの言葉が行き交い、まじめに授業に取り組むことができないということを知ることがあります。では、柏木小学校の音楽の授業はどうでしょうか。

音楽のウォーミングアップなどでしょうか、草深先生の演奏に合わせて、動作を入れたほぐしが始まりました。全員が横向きとなり、前の人の肩をトントンとたたいていきます。自然と子どもたちに笑みがこぼれだします。



一転して、「真っ赤な秋」の斉唱にはいります。しっとりと歌いあげていました。

間髪を入れずに次の楽曲「カントリーロード」。「真っ赤な秋」よりは、子どもたちは歌いやすそうでした。草深先生の伴奏は、実に巧みです。

歌詞は、大型モニターに映しだされ、子どもたちからはとても見えやすくなっています。特別教室には、今年の夏に、一般教室に遅れること1年で配備されました。



「さて、今月の歌は「幕をあける歌」です。今月はこれだけです」

と、草深先生。子どもたちの中から「えー」という声が聞こえます。いろいろな音楽に触れて、それを歌える機会を、6年生も楽しみにしているのです。この曲は、学芸会にちな

んだ歌なのでしょう。今度は歌詞を歌っているものを再生しました。はじめてなのかと思ったのですが、前回に一回だけ聞かせたそうです。それでも、多くの子どもたちは、いっしょに口ずさんでいます。学芸会への期待がうかがえました。

## 今日のメイン 和音を使っの音楽づくり(リコーダー)

「雨のうた」という曲をリコーダーを使って、2人組または3人組で演奏するのですが、基本の曲にアレンジを加えて、和音をつかって発表するのがこの授業の中心です。各々のぐるーぷが、自分たちのつくった譜面を見ながら練習に取り組み始めました。



3  
年  
生

練習時間が過ぎ、いよいよ発表の段階です。モニターに、発表者が練習していた譜面が映し出され、演奏が始まります。草深先生からは、「どんな工夫がされているのか、気をつけて聴きましょう」という言葉がかけられます。

演奏が始まると、真剣に演奏に聴き入ります。どこに工夫がされているのかを、聴きのがすまいとしているようです。聴いている子どもたちからは、「最後に音を重ねているところがきれいだった」「①段目は〇〇、②段目は△△、③段目は□□」と、意図をはっきりさせての演奏だったようです。かなり高度だなと思いました。

発表後に、今度は全員で、2人が考えた曲調を演奏しました。



その後も次々と発表者がかわり、演奏をして、感想を話し、考えられた旋律に従ってみんなで演奏することを繰り返します。子どもたちをよく見ると、演奏を初見で聴いている時点で、友達の旋律をたのしんでいる様子がうかがえました。それぞれのグループが、工夫を凝らして音楽を創り出し、それを共有することに喜びを感じているのです。

片付けの時間となると、草深先生が伴奏をして、しっとりと授業が終わりました。

## 授業の感想

授業後に音楽の授業の感想をたずねてみました。

「音楽の授業はむずかしくないですか」

「普通」

「どんなところが楽しいかな」

「みんなで重ねるところがたのしい」

「自分で実践してやれるところがたのしいです」



授業後には、音楽室のドラムをたたいて、たのしんでいる姿が印象的でした。

子どもたちの日常の中に、音楽の授業が寄り添っているのだと感じられました。